

編集後記

そのように見守られているということ、背中越しに信じることでできる子どもは幸せだろう。

「背による自己主張」「上級生の背を見て育つ関係」——からだシリーズで今回「背」をテーマに書いていただいた。背中のもつ表現力、関係性の豊かさに気づく。「子の背中を見送るのもいい」という母親の言葉には、頭の下がる思いがする。

子どもの背中に感慨をおぼえる心持の大切さ、逆に背中が背中にか見えないう時の保育者の構えとはどのようなものなのか、考えさせられる。子どもの前面ばかりを見ている保育が多いのではないか。せいぜいよくて横顔か。子どもの背中を見守るには、大人の方に、子どもへの信頼と心のゆとりが必要になってくる。

小学校での授業参観。子どもの後ろに保護者たちが並び、わが子の背中をばらばらして見守る。ちらちらと親のほうを振り返る子ども、がんとして後ろを見まいとする子ども、それぞれの表情がおもしろい。つい横にまわって顔を見たくもなるが、ぐつとがまんして後ろに控えていてやろうかと思ったりする。

電車や街角で、母親に抱かれた赤ちゃんが、背中越しに、母親の知らない世界で見ず知らずの大人にあやされている光景がある。赤ちゃん独特の外交。そんな時、保育者の意図しない「偶然による保育」という不思議さと、まだ時折出会うことのできる社会の暖かさを感じる。(浜口)

幼児の教育

第一〇三巻 第十号

(二〇〇四年十月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十六年十月一日

編集兼発行人 浜口順子

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8600 東京都文京区大塚二二一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五二二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三三三九五五五六六一三(営業)

☎〇三三三九五五五六六〇四(編集)

振替 〇〇一九〇一一一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。